

私はこの春休み、二年間ずっと伸ばし続けてきた髪の毛を、ヘアドネーションを行うために三十センチ切りました。そこで今回の感話では、私が思い続けてきたヘアドネーションについて書こうと思います。

ヘアドネーションとは、小児がんや先天性の脱毛症、不慮の事故などで頭髪を失った子どものために、寄付された髪の毛でウィッグを作り、無償で提供する活動のことです。「他人の髪の毛のウィッグなんて気持ちが悪い。」という人もいますが、元々が人間の物だからこそ利用者にも肌馴染みしやすく人工的な物よりも扱いやすいというメリットも沢山あります。

私がヘアドネーションに興味を持ち始めたのは、小学四年生の時です。私が当時教わっていた音楽の先生の髪の毛がとても長かったのですが、ある日突然肩の長さまで短く切って来られました。驚いて先生に理由を聞くと、ヘアドネーションで髪を寄付されたとおっしゃいました。聞いたこともないヘアドネーションとは何だろう。私は先生の事が大好きだったのでとても興味を持ちました。お金ではなく、自分が髪の毛を伸ばすことで、人の役に立てると先生は教えてくださいました。しかし当時の私は習い事をいくつかしていて、髪の毛を長く保ち続けるのは難しかったのでヘアドネーションをすることは出来ませんでした。中学生になり、家族とも相談し、長く思い続けてきたことを、やっと実行することに決めました。恵泉では入学してからキリスト教の教えを学びます。日々聖書で学ぶことにより、益々自分自身でできるヘアドネーションの大切さを強く感じました。そこで今回はヘアドネーションの活動を行っている美容室で髪の毛を切り、協会に髪を送って頂きました。その美容室の方は、世の中への恩返しとおっしゃっていました。ヘアドネーションへの想いは人それぞれですが、私は切った後、とてもうれしく、清々しい気持ちでいっぱいでした。

ヘアドネーションは元々、アメリカのNPO団体LOCKS OF LOVEが始めた活動です。日本ではJAPAN HAIR DONATION&CHARITY 通称ジャーダックが初めに活動を開始しました。ジャーダックとは寄付された髪の毛だけで作ったメディカルウィッグを、頭髪に悩みを抱える十八歳以下の子どもたちに完全無償提供している日本で唯一のNPO法人です。日本では、最初のウィッグを作るまでに四年間かかりましたが、柴咲コウさん等多数の著名人が参加したことにより、認知度が上がり寄付が急増しました。

メディカルウィッグを作製する際、主に髪の毛の長さは三十一センチを境に分けられます。三十一センチ未満の髪の毛は頭をすっぽりと覆うウィッグをつくることはできません。しかし最近では十五センチ以上であれば、つな髪プロジェクトで髪の毛付きインナーキャップウィッグを作ることができるようになりました。これにより長く伸ばすのが困難な人でも活動に参加しやすくなりました。三十一センチ以上の髪の毛は医療用フルウィッグとして役立ちます。医療用ウィッグは、ネットに髪の毛を半分の長さに折り返して一本ずつ結びつけて作ります。その為、三十一センチの髪の毛の長さであれば半分の約十五センチのボブスタイルに仕上がります。私は髪の毛を切りに行き、美容師の方に教えていただくまでこのことを知りませんでした。三十センチ切れば三十センチ程の肩位までのウィッグになると思っていたのです。聞いた時は何故そんなに短くなってしまおうのかという衝撃と少し残念な気持ちでいっぱいになりました。ですが改めて調べてみると、利用者の方が毎日使うことを想定し、少しでも負担が軽減されるように作られていることが分かったので、沢山の工夫が凝らされていると思い改めて凄いなと感じました。

最近は新聞などでヘッドネーションについて取り上げている記事を多く目にするようになりました。これは以前よりもヘッドネーションについて関心が高まっている証拠だと思います。お金ではなく、自分自身でできる社会貢献です。どんな人でも髪の毛を伸ばすことで参加できるので、これからももっと参加者が増えていけば良いと思いました。今回の感話で少しでも興味を持って頂けたら嬉しいです。